

土をしばくと家が建つ、バンチクやろう！

11/23(火・祝)

版築小屋建設現場に集合！

バン チク

ミーティング

版築 Meeting 2

日々成長を続ける版築小屋の現場でいろいろな専門分野の人が集合！

建築家や陶芸家、左官屋さんなどバラエティー豊かな面々で土をしばきます。

地元の方や観光客の方も飛び入り参加OK。版築に興味ある方大歓迎！しばき方教えます。

色々な話をしながら、土を通してみんなで交流しましょう。



■日時

◇11月23日(火・祝)

◇10時～16時(12～13時は昼休憩)

■場所

◇版築小屋建設現場、壱仙登り窯

■内容

◇版築小屋の床版築仕上げ

◇版築小屋の屋根仕上げ

◇参加者らへのヒアリング など

版築
小屋
とは



信楽まちなか芸術祭では陶芸の都ならではの焼き物企画がめじろ押しです。そこで、焼き物のもとになる「土」と「水」の不思議な反応を利用して、土の家を作ろうと考えました。

世界中で古くから受け継がれてきた 版築 という伝統技法の専門家と町の人々が一緒になって土の家を信楽に建てます。出来上がった版築でお茶を飲んだり、休憩したり、作品を展示したり、使い方は自由です。

みんなのアイデアを持ちよって一軒の土の家を信楽に建てたいと思います。

まちなか陶芸展ディレクター 松井利夫

版築とは、堅固な土壁をつくるために用いられる古来から伝わる工法である。日本では土堀や地盤改良、古墳の墓室や大寺の基段などに用いられており、一般に土、石灰、にがり、魚油などを配合する。型枠に土を入れてそれを半分のかさになるまで叩き締め土を固める。押し寿司のようなつくりかたである。1層は50mm程度で型枠が一杯になると上へ型枠を足すか、型枠を上へスライドさせて壁体をつくっていく。版築造の場合、構造は塗壁のように木柱でなく、土そのものが構造体となり、版築壁そのものが外壁材、内壁材、全ての役割を果たすのが特徴である。中近東やブータンなどでは建築に使われておりいづれも耐用年数が高い。日本では建築工法としては数少ない。現在深刻となっている地球環境の問題やシックハウス問題に有効な素材であること、調湿調温機能があることなどから、ここ数年で版築造は見直され、海外だけでなく、日本においても積極的に取り入れる試みがなされている。(版築研究所から転載 http://www.kobe-du.ac.jp/env/kimura/hanchiku/mai_n.html)

お問い合わせ

信楽陶芸トリエンナーレ実行委員会事務局

TEL82-1153 / FAX82-3415

HP <http://tri.shigaraki-sp.com/>